

ミナミアオカメムシ情報第1号 (ダイズ)

平成29年9月15日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

ミナミアオカメムシの発生量「やや多い」 カメムシ類防除を徹底しましょう。

1 ダイズにおけるミナミアオカメムシについて

ダイズの子実を吸汁して被害粒(図1)などを引き起こすミナミアオカメムシ(図2)は、8月中下旬頃から早期栽培水稻で発生する第2世代成虫がダイズに飛来し、ダイズで発生する第3世代幼虫とともにダイズ子実を吸汁加害します。



図1 ミナミアオカメムシによる被害粒



図2 ミナミアオカメムシ(左図:成虫、右図:幼虫)

2 ダイズにおけるミナミアオカメムシ発生量予測

県内6カ所に設置した予察灯における第2世代成虫の総誘殺数(8月中旬~9月上旬)は、弥富市、東浦町、西尾市でやや多くなっており(図3)、第2世代成虫のダイズへの飛来量はやや多いと予測します。また、今後も幼虫の発生に好適な条件が続くと予想されており、ダイズにおける本種の発生量もやや多くなると予測します。

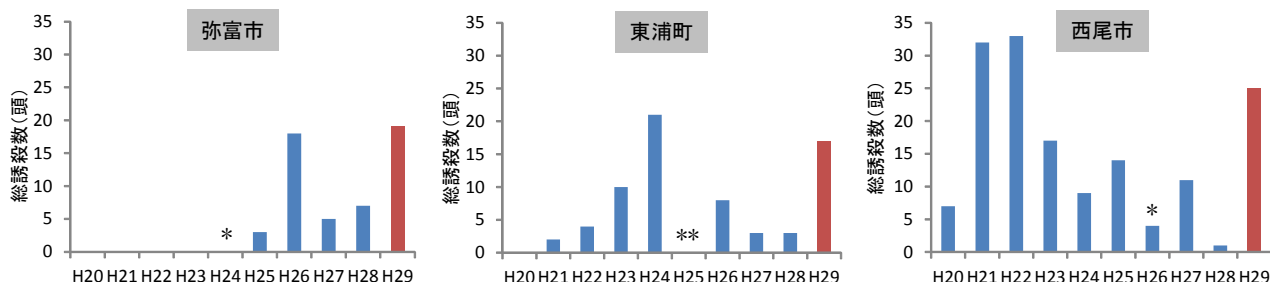


図3 予察灯におけるミナミアオカメムシ第2世代成虫の総誘殺数(8月中旬~9月上旬) *:一部欠測、**:欠測

3 防除対策

被害粒の発生を抑制するために、下表を参考に開花後30日頃に薬剤防除を実施しましょう。その後も発生が多い場合は7~10日後に再度防除を実施しましょう。

表 だいたいのカメムシ類に対する主な防除薬剤

薬剤名	使用時期	使用回数	系統名	IRACコード
スミチオン乳剤	収穫21日前まで	4回以内	有機リン	1(B)
トレボン乳剤	収穫14日前まで	2回以内	ピレスロイド	3(A)
キラップフロアブル	収穫7日前まで	2回以内	フェニルピラゾール	2(B)
スタークルメイト液剤10	収穫7日前まで	2回以内	ネオニコチノイド	4A
スタークル液剤10				
アルバリン/スタークル顆粒水溶剤	収穫7日前まで	2回以内	ネオニコチノイド	4A

使用回数には同一成分の剤を含む回数を含む。

IRACコードは殺虫剤の作用機構による分類を示す。

IRACコードの詳細は、http://www.jcpa.or.jp/lab0/pdf/2017/mechanism_irac.pdfを参照する。

薬剤の散布に当たっては、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努める。